



県中いわて

令和7年6月2日 / 第265号

- 発行 / 岩手県中学校長会 ●代表 / 照井英輝 (盛岡市立厨川中学校) ●事務局 / 〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9 (盛岡市勤労福祉会館2F) / 電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
- 印刷 / 杜陵高速印刷 / 電話019(651)2110

変化の激しい時代にあって、子供たちの可能性を引き出し、 教師も共に成長する学校経営を目指す 第63回岩手県中学校長会総会 (令和7年4月25日開催)



総会で挨拶する照井会長

第63回岩手県中学校長会総会が4月25日(金)都南文化会館(キャラホール)において開催されました。議事においては、岩手地区 及川博文氏(滝沢市立滝沢中学校長)と、紫波地区 藤澤崇氏(矢巾町立矢巾北中学校長)の両氏を議長として選出し、会を進行しました。昨年度の活動及び予算の執行状況について承認いただくと共に、今年度の活動方針並びに予算案、新役員についても承認いただきました。

総会后、2月末に発生した大船渡林野火災で被災した地区の代表として、大船渡市立東朋中学校 校長 村松正博氏より、本会からの見舞いに対する御礼とともに、被災した生徒への学習支援や心の寄り添いについて報告がありました。



議長を務める及川校長(左)と藤澤校長(右)



感謝と報告を述べる村松校長

会長挨拶（要旨）



岩手県中学校長会 第55代 会長 照井 英輝
(盛岡市立厨川中学校)

本日、岩手県教育委員会教育長佐藤一男様をはじめ4名のご来賓をお迎えし、第63回 岩手県中学校長会 総会を開催できることに心から感謝申し上げます。

この3月末にご勇退されました小野寺哲男会長をはじめ、19名の皆様に感謝の意を表するとともに、4月から新たに会員となった21名の皆様を歓迎いたします。

県中学校長会は、会員相互の協調と連携を通じた資質向上と、本県教育の振興に寄与することを目的としております。143名の校長による学校経営及び教育活動の充実が、子供たちの成長ひいては本会並びに本県教育の発展に資するものととらえております。

2月末の大船渡林野火災で被災された方々に対しお見舞いを申し上げます。また、各地で子供たちが支援活動に取り組んでいることに、「いわての復興教育」の確かさを感じ、今後も継続的支援を行ってまいります。

昨年10月の全日中岩手大会では、全国の校長が盛岡に参集し、中学校教育の課題と今後の方向性について実りある議論が行われ、令和の日本型学校教育の実現に向けて、学校教育の質の向上を決意する機会となりました。大会運営に携わった皆様の温かく丁寧な「おもてなしの心」は参会者に伝わり、東日

本大震災津波以降、全国からいただいた支援に対する感謝を表す大会となりました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

さて、現代は予測困難な時代といわれ、自然災害やコロナ禍など、私達は答えのない問いに向き合っています。目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、色々な立場の人達と議論・協働し、納得解を生み出し進んできました。このことは、学習指導要領で育成を目指す資質・能力であり、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善と、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推し進め、全ての子供たちの可能性を引き出す学校教育を創り上げなければなりません。

子供たちの未来は美しい。安心・安全で魅力のある学校で生きる力を身に付け、変化の激しい社会で子供たちがたくましく活躍することは私たち教員の幸せであり、生きがいです。そして、教員の未来も美しい。地域や保護者、関係機関とともに部活動の地域展開や働き方改革等を推進し、子供たちの学びの伴走者として、やりがいと使命感に満ちた姿で働き、共に成長する。そのような教職の魅力は大いに発信できる学校経営を続けていきたいと考えます。校長は教育行政の一翼を担うという自覚をもち、「チーム岩手」「一枚岩」で、子供たちの笑顔のために学校経営・学校づくりをしてまいります。

ご祝辞（要旨）



岩手県教育委員会
教育長 佐藤 一男 様

第63回 岩手県中学校長会 定期総会に当たり、最高責任者として日々学校経営に御尽力いただいていることに対し感謝を申し上げます。

また、昨年度46年ぶりに本県で開催された全日本中学校長会研究協議会を成功裏に収めたことに敬意を表します。

「岩手県教育振興計画（2024～2028）」の学校教育における目指す姿は「岩手の子どもたちが、自分らしく生き生きと学び、夢を育み、希望ある岩手を創造する『生きる力』を身に付けている」です。すべての子供たちの自分らしい生き方の実現に向けて、教育活動の一層の充実をお願いします。昨年12月、次期学習指導要領改訂に向けて文科大臣から中央教育審議会に諮問されましたが、現行の学習指導要領の実現状況を確認し、主体的・対話的で深い学びの

視点からの授業改善により、子供たちの資質・能力が確実に育まれるようお願いします。

中学校教育では、どのような人間になり、どう生きるのが望ましいのかといった長期的展望の人間形成が求められます。新たな入試制度のもとで高校入学者選抜が実施されましたが、小学校から高校まで系統的なキャリア教育の一環としての進路指導の充実を期待しております。

さらに、子供の可能性を最大限に引き出すには、自律的に学び続ける教師であることが必要です。県策定「教員等育成指標」に基づき、対話を通して目標設定を促しながら、学び続ける人材の育成にお力添えをお願いします。また、子供が大人と同じ一人の人間として基本的人権を有することを理解、尊重し、多様性と包摂性のある学校文化の醸成のもと、教育活動の一層の充実を期待します。

令和7年度行政説明の概要

教育行政上の課題

教職員課首席経営指導主事兼小中学校
人事課長兼服務管理監 佐藤 孝之 様



1. 令和7年度学校教職員定期人事異動等の状況
異動総数は事務職を含まず1,133名（18.7%）であり、そのうち校長昇任者は74名、副校長昇任者は63名。新規採用者小学校125名、中学校80名で、県内の約1/3以上の学校に配置されています。

2. 今年度の重点事項

(1) 人材確保について

昨年度、小学校採用試験倍率が1.8倍でありました。今年度、選考方法の大幅な見直しを図り、新規採用人材の確保をねらっています。採用数は今年度と同数程度の予定です。また、盛岡地区を中心として未配置の学校が多数あります。講師人材の掘り起こし、SNS募集、県内外の大学で情報提供の依頼を進めています。昨年度、小中学校の学校公開に高校生約90名の参加が実現し、一定の成果があったと捉えています。若手人材への働きかけに今後ともご協力をお願いします。

(2) 人材育成について

講師の校内での人材育成と合わせ、採用試験を受験する際、十分に準備ができるよう配慮をお願いします。近年、若手教員が毎年30人前後退職している状況が続いています。転職、他県への採用、精神疾患などで退職する若手教員を極力減らし、教員不足解消につなげていきたいと考えます。実習校で鍛えたい人材、教育行政で力を発揮し得る人材の育成について、全県の教育活動の充実、本人のキャリア形成という視点で、ご協力をお願いします。また、主幹教諭への受験を勧めただくようお願いします。

(3) 不祥事の未然防止について

今年度は、「飲酒運転の根絶」と「不適切な指導の根絶」の徹底を図ります。

一人一人の飲酒の習慣を確認するとともに、全職員に当事者意識の醸成を図るようお願いします。「岩手モデル」をもとに、子どもの人権を第一に考え、より良い指導のあり方について、指導方法を更新することが大切です。保護者を含め対応に苦慮する事案も増えており、「大きくとらえて、小さくおさめる」迅速で適切な初期対応をお願いします。

(4) 働き方改革について

健全な教育は、「教職員の心と体が健康であること」が大前提です。学校運営上必要なもの、削減できるものを精選し、ゆとりをもって教育活動が進められる環境づくり、職員の心が通い合う、働きやすい職場づくりにご尽力をお願いいたします。

指導行政上の課題

学校教育室首席指導主事兼
義務教育課長 佐々木淳一 様



令和7年度の指導行政は、「すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現」を掲げております。子どもたちにとってのウェルビーイングは、存在が認められ、大切にされていると感じること、成長を実感できること。保護者にとっては、そのような子どもの姿を目にすること。教師にとっては、教育実践を通じて子どもたちが成長していく姿を目にすること。地域にとっては、そのような学校と自分たちがつながり、学校の役に立っているという実感をもつこと。学校教育目標の実現に向けた取組の中で、学校に関わる人たちのウェルビーイングを生み出していただくようお願いします。

1 いわて県民計画第2期アクションプランに基づく教育施策の推進

次の3点について、指標の実現に向け、実践と改善をお願いします。

①地域学習等の充実を図ることを通して自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の育成、②主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善から「子どもを主語にした学び」の構築と、家庭学習を含めた児童生徒の「学びに向かう力」の育成が必要だと考えます。また、③豊かな心の育成的観点で、人とかかわりの中での人権意識、道徳の実践力、多様な他者との共生など、望ましい人間関係を育んでいく学校風土の醸成をお願いします。

2 学校経営について

学校が果たすべき役割が多様化する中で、「教育活動の充実」と「働き方改革の推進」を一体的に推進するとともに、「学力向上の取組」と「不登校対策」「いじめ対応」は、学校教育のバロメーターとして改善を目指し続ける必要があります。デジタル教科書等の活用、統合型校務支援システムの活用、「令和の日本型学校教育」を担う教員の育成も不可欠です。組織マネジメントを通じて、若手、ベテラン、主任層それぞれに応じた「人材育成」を意図的に行っていくことも重要です。

3 現行学習指導要領の着実な実施について

中教審における議論の内容、方向性についての情報収集をする一方で、現行学習指導要領の趣旨に基づく学校教育の実現と生徒たちの学習状況に着目し、諸調査で明らかとなった課題の改善・克服に、集中的な取り組みをお願いします。知を与えるには、先生と生徒の信頼・親和関係が前提となります。生徒一人ひとりが活躍できる出番や学ぶ機会がある、温かい授業づくりをお願いします。

県教育委員会は、校長先生方の応援団です。「チームいわて」として岩手の子どもたちのために力を合わせていきます。

最後に、先の大船渡市の林野火災に際し、児童生徒が募金活動やボランティア活動で「大船渡のために」と思いを寄せました。東日本大震災津波を教訓とした復興教育の成果を実感しました。各校の取組に感謝いたします。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に佐藤拓史氏（一関地区・花泉中）を選出、記録者に千葉賢一氏（気仙地区・高田東中）を委嘱し、経過報告のあと、今年度の運営計画案、二つの調査研究、各研究大会への対応等について協議・確認を行いました。

調査研究については、昨年度行われた全日中岩手大会のために割愛した調査2「教育課程編成実施状況調査」を再び実施することとしました。併せて例年通り調査1「進路指導推進状況調査」も実施することとしました。調査結果の分析・考察は、幹事の
大越 淳氏（盛岡地区・城西中）、小野寺 新吾氏（岩手地区・柳沢中）、佐々木 敏之氏（紫波地区・矢巾中）、菊池 勉氏（盛岡地区・岩手大学附属中）のご協力を得ながら、年4回の幹事会を開催して行うことを確認しました。

各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、発表等の年次計画をふまえて推進することを確認しました。



<研究調査担当理事 佐々木秀毅>

行財政部

会議では、議長に石関由香氏（岩手地区・一方井中）を選出し、記録者には八木稔和氏（花巻地区・矢沢中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、行財政調査の内容と進め方について意見交換を行い、事業推進日程を確認しました。内容については、修正・変更等の意見はありませんでした。

その後、幹事に千田幸喜氏（盛岡地区・黒石野中）、石関由香氏（岩手地区・一方井中）、及川仁氏（紫波地区・紫波第一中）を選出しました。

行財政の調査は、例年よりも早めて5月中旬依頼～6月下旬地区締切の予定で、電子メールを活用して実施します。会員の皆様のご協力をお願いいたします。



<行財政担当理事 熊谷治久>

生徒指導部

生徒指導部会は、議長に内川千亜希氏（紫波地区・紫波第二中）が選出され、記録者には佐々木晋氏（花巻地区・花巻北中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について確認と協議を行いました。

生徒指導部の主要業務である「生徒指導の諸課題にかかる調査」については、昨年度よりWeb調査で行っており、令和7年度についても同様の方法で行うことを確認しました。本調査の結果は、岩手県中学校校長会誌でお伝えする他、リーフレット形式で各校に配布する予定ですのでご活用ください。

なお、アンケートの集計・分析にあたって、齋藤秀一氏（盛岡地区・見前南中）、木村洋氏（岩手地区・小屋瀬中）、内川千亜希氏（紫波地区・紫波第二中）の3名の幹事の皆様のご協力を得ながら進めさせていただきます。

また、上記以外の事業として、昨年と同様に生徒手帳の編集、小・中学校情報交換会等を行います。今年度は情報交換会の主管が中学校長会となりますので、各地区担当者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



<生徒指導担当理事 坂本 大>

広報部

会議では、議長に鎌田政好氏（宮古地区・田野畑中）を選出し、記録者には畠山和彦氏（久慈地区・宇部中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、今年度発行予定のNo.265号～267号までの事業推進日程を確認しました。さらに、次の内容について確認を行いました。

- (1) 県中学校長会広報「県中いわて」の編集計画及び原稿の執筆依頼手順
- (2) 岩手県中学校長会「会誌第36号」の発行
- (3) 県中学校長会HPの更新

内容については、修正・変更等の意見はありませんでした。

原稿の執筆依頼については、各地区会長の校長先生に寄稿者をご推薦いただき、地区広報部担当者から依頼文書を送付する流れとなっております。

広報部の活動を通して、当面する課題や有益な情報の共有とともに会員相互の交流が促進されることを願って、業務を進めて参ります。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。



<広報部担当理事 立柳容子>

退会者代表あいさつ

「一枚岩」の県中学校長会に感謝

前岩手県中学校長会長
小野寺哲男



はじめに、照井英輝新会長のもと、新たに21名の新会員を迎え、令和7年度岩手県中学校長会の活動がスタートしたことに、心からお喜びを申し上げます。

昨年度は、通常の県中学校長会の活動に加え、昭和53年以来2度目の全日中岩手大会が、トーサイクラシックホール岩手をメイン会場(他7分科会場)に、岩手大会スローガン「未来への一步を 共に、黄金の國いわてから」のもと10月中旬に開催されました。参集により開催できたこと、また県中学校長会として「一枚岩」となって運営できたことに感謝いたします。

校長は、普段、学校経営及び教育活動の推進に当たり、授業の充実を目指した組織的取組、いわゆる個別最適な学び・協働的な学びを主眼とする令和の日本型学校教育の推進をはじめ、誰一人取り残さない教育の工夫改善、部活動の地域展開への対応、働き方改革の拡充、コンプライアンスの確立、その他、各種団体や保護者・地域との協力のもと職務の遂行に努めております。その際に大切にしているのが「そもそも学校教育は何のためにあるのか」という原点です。その点を踏まえつつ、教育行政の一翼を預かる現場代表として、歴代の校長等の先輩方や関係者に感謝し、教育をめぐる様々な情報を収集しながら、現状を的確に分析し、今の課題に優先順位をつけながら組織を生かして対処し、生徒たちの「今」を充実させていくことが重要であると誰もが認識しているととらえております。もちろん、どの学校においても各校の実態に応じて復興教育や人権教育等を基盤に置いていると考えているところです。各地区校長会においてもチーム岩手の意識で互いに協力しながら活動を進めてきたことと推察しております。改めて敬意を表します。

昨年度までの県中学校長会の活動を経験し、仲間がいたからこそ、安心して悩みをこぼし、希望を語り、目指す学校経営に向けて、あきらめずに、行ったり来たりしながら、楽しんで校長職を務めてこられたと実感しております。本当にありがとうございました。

今は各退会者が新しい立場で、お世話になった教育界を陰に陽に支えていると認識しております。

結びに、岩手県中学校長会の益々の充実と発展をご期待申し上げ、退会者代表の挨拶といたします。

私の学校経営

「支えとなるもの」

和賀地区 菊池 良弥 (上野中)



校長職として2校目。今年度役職定年となる。これまで心がけてきたことを振り返ってみようと思う。

まず、生徒・保護者・職員に対して「ごまかさないう」ということ。学校通信を作成する際、学校の様子を校長の考えを交えて記載している。生徒や保護者だけではなく、職員に読んでもらうことも意識している。日頃、校長の考えを生徒や保護者に伝える機会は多くはない。良いことも悪いことも(多少説教くさくなることもあるが)伝えるようにしている。

昨年度、事情により急遽修学旅行の日程を変えざるを得ない事態になった際も、こちらの非を含め経緯を隠さず保護者に説明申し上げた。結果それでよかったと思っている。

次に、「職員を頼る」ということ。学校経営をする際に、自分の判断がすべて正しいとは限らない。独断に陥ったり、別の道筋に気づけなかったりすることもある。自分の考えを補正・補完してもらう必要性を感じている。職員も納得して仕事ができなければ、十分に力を発揮できないと考える。相談しやすい雰囲気づくりも大切だ。

最後は、「生徒を巻き込む」こと。今年度、学校公開を控え、昨年度は校内研究の内容を生徒にも理解してもらうべく、生徒用の研究通信を作成した。本校の研究内容や学び方を、生徒が理解することは大切であり、生徒を巻き込んだ全校体制で臨もうと考えている。これは生徒指導面でも同様であり、指導する意味を理解させるよう対応している。

副校長時代、先輩の副校長先生が「(大変なことであっても)腹をくくってやればできる。」とおっしゃったこと。お世話になった先輩の校長先生から学んだ「校長の姿勢とはぶれないこと」の二つが、校長としての私の根幹をなしていると思っている。

でも、こう書くと職員から「いやいや校長先生、そういう風にやってないじゃないですか。」と言われてそうで怖い。

新任校長の抱負

目指す校長像

岩手地区 石関 由香（一方井中）



本校は、いわて沼宮内駅より西方5キロメートルの地点に位置し、標高430メートルの高山の麓の、一方井地区を一望する高台にあります。

学区は世帯数約900戸、人口は約2,100人が暮らし、70パーセントは農業を営んでいます。

保護者の教育的関心は高く、学校にも協力的で、文化面、体育面ともに期待を強くもっています。

本校の目指すところは、「地域の未来を担い、岩手町の未来を担い、未来の岩手、日本を担っていく子どもたちの育成」です。

一方井中学校は3年後の令和10年の春に閉校し、子どもたちは新設中学校に通学することになります。

そんな本校の新任校長として、瞬く間に1か月が過ぎました。

学校を知ること、地域を知ること、子どもや教職員を知ること等、無我夢中で過ごした毎日でした。

先日、地域の方から、「一方井に新風を吹き込んでほしい」「女性の校長先生頑張ってる」などと、励ましの言葉を頂きました。学校の応援団として期待してくれていることを、嬉しく思いました。

閉校を見据えながら、一方井の子どもたちをさらに輝かせたい、保護者の信頼をさらに高めたい、地域の方々と子どもたちと一緒に育てていきたい、教職員がさらに働きがいのある学校にしていきたいと思っています。

私はそのために、校長としての果たすべき使命を強く自覚し、学校が目指すビジョンを明確に示し、情熱をもって業務の遂行に全力を尽くす覚悟です。

今日に至るまで、諸先輩方から、たくさんのご教訓を頂きました。「学校は安心・安全な学びの場でなければならない」「自分の失敗を語れる校長になりなさい」「常に笑顔でいることが大事」等々。

私の言葉で教職員や子どもたちの心に響く指導を心がけていきたいと思っています。

新任校長の抱負

先達はあらまほしきことなり

花巻地区 渡邊 康二（宮野目中）



「先達はあらまほしきことなり」これは、だれもが国語の授業で聞いたことのあるフレーズではないだろうか。中学校2年の古典教材として掲載されている兼好法師『徒然草』のうち、『仁和寺にある法師』の最後の一節である。私も国語教師として、何十回と指導してきた教材であるが、今年度の4月ほど、このフレーズが頭をよぎったことはない。

この4月に、花巻市立宮野目中学校に赴任した。本校は、花巻空港の西に位置し、宮野目小学校、宮野目保育園が近接する。同じく近接の宮野目地区振興センターを中核とした文教地区であり、保護者・地域の方々とも学校に関心の高い地域である。

学校現場で子どもたちに会える喜びに胸をふくらませての赴任である。引き継ぎの時には、前校長先生から「生徒はとても穏やかだよ。心配せずに」と言われ、4月4日の新任式・始業式・入学式を待ち遠しく思っていた。子どもたちとも出会い、学校生活が始まると、その通り子どもたちは穏やかで、笑顔であいさつを返してくれる。教員であることを実感しながらも、やはり校長職として赴任した以上、判断を求められる場面は少なくない。学力向上取組や不登校対策など生徒指導の在り方、教職員の働き方改革等々。自分の判断が、157名の子どもたちと21名の教職員に影響する。自分の職の重さを痛感し、日常の判断にも苦慮する日々が始まった。

そんな時ふと頭に浮かんだ言葉が、「先達はあらまほしきことなり」である。そうだ、些細なことであっても「先達」の例を参考にさせてもらおう。市内の校長先生方にもすぐ電話した。以前はどうだったのかと過去の資料をあたったり、学校在籍時を思い出し、当時の校長先生はどんな判断をしていたのか、その理由にも思いを巡らせてみたりもした。

「先達」に学んだ自分の判断。それが宮野目中学校の生徒と教職員、一人一人にとって最善の判断となるはず、と信じて過ごす毎日である。

新任校長の抱負

新任校長としての抱負



遠野地区 上館 敦彦 (遠野東中)

本校は、平成25年に青笹中学校、土淵中学校、上郷中学校の3校が統合してから13年目を迎えます。全校生徒128名が「心」を大切にしたい4本柱「心をつなぐ挨拶」「心に響く合唱」「心をゆさぶる応援」「心を磨く清掃」を中心として生徒会活動に取り組んでいます。

校長室は校舎2階の北側にあり、普通教室は1階のため、普段生徒の活動の様子は見えない位置にあります。しかし、1階フロアに降りるとすべての教室が目に入り、生徒の「分かれよう」「できるようにしよう」という意欲を感じることができます。また各行事や部活動などでも見せる生徒たちの姿に、自分も頑張らなければと力をもっているような気がします。

本校の目指す学校像は「郷土に誇りを持ち、安心・安全に充実した学習・生活ができる学校」の実現です。ふるさと遠野を強固な基盤とし、未来を切り開いていける力を身につけさせたいと考えています。

子供たちは、家庭や学校だけでなく地域からも見守られながら成長しています。地域の伝統芸能である神楽や獅子踊りなどに進んで取り組み、郷土に誇りと愛情をもって成長している子供たちです。郷土の良さを見つめなおしながら、地域と連携し学校経営にあたっていききたいと思えます。学校運営協議会からもたくさんのご意見をいただき、よりよい学校を目指し、地域の子供たちの力を伸ばしていきたいと思えます。

教職員の働き方改革をはじめ、学校を取り巻く様々な課題があります。子供たちの成長を間近で見ることができることに喜びを感じながら、子供たちと学校のウェルビーイングの実現を目指していきたいと思えます。これからの社会を担う子供たちのため、またこれからの子供たちを育む先生方のため、誰もが笑顔で、精一杯力を伸ばしていける学校をつくれるよう職務にあたってまいりたいと思えます。

新任校長の抱負

浄法寺といえば…



二戸地区 村上 花恵 (浄法寺中)

浄法寺といえば「漆」、「天台寺」。未知の国に宝探しに行くようなワクワク感と、校長職への大きな不安を抱え、春まだ浅い浄法寺中学校に着任しました。

校長室や昇降口には、浄法寺塗りの漆器や伝統的な漆掻きの道具が並んでいます。浄法寺支所の2階には、天台寺住職であった瀬戸内寂聴さんの記念館があり、その功績や天台寺、浄法寺への思いを知ることができます。

4月の生徒会オリエンテーションで、2、3年生による「浄法寺太鼓」が披露されました。先輩方の熱い思いと、迫りに満ちた演奏に新入生は圧倒され、私も大いに心が震えました。全校生徒47名。これまで勤務したどの学校よりも人数は少ないですが、生徒がもつエネルギーや地域を愛する気持ちは、どこにも負けないものだと感じました。先生方もそうです。体育祭での応援合戦の復活、「浄法寺の未来学」の企画等、生徒や地域の特長を生かした取組や新企画に挑み、生徒の可能性を広げようと力を合わせてがんばっています。

5月、学校運営協議会を開催し、地域の様々な分野のエキスパートにお集まりいただきました。協議の中で、「中学生は地域の宝だ。」というお話があり、この思いと生徒に対する期待が、本校教育の柱である地域学習やボランティア活動を支えているのだ、地域全体が学校の強力な応援団なのだと、大変心強く感じました。

瀬戸内寂聴さんは縁あってこの地に赴き、地域や人々の心に大切なものを残されました。私もこの地と人との出会いに感謝し、ご縁を生かすことができるよう、力を尽くしたいと思っています。

「浄法寺太鼓」は、地域から浄法寺高校へ、そして本校へと受け継がれてきたものです。この伝統を全校生徒の取組・学校文化としてしっかりと根付かせ、更に、中学校から再び地域の伝統芸能へと還元していきたいと考えています。浄法寺太鼓の魂を揺さぶる鼓動が、生徒にとっても地域にとっても誇りとなり、浄法寺といえば…に「浄法寺太鼓」が加わる日を夢見て、生徒、職員、地域とともに力を合わせ頑張っていきたいと思えます。

令和6年度末退会者

No.	地区	学校名	氏名
1	盛岡	盛岡市立下橋中学校	泉澤 毅
2	盛岡	盛岡市立上田中学校	丸橋 友之
3	盛岡	盛岡市立河南中学校	久慈 孝
4	盛岡	盛岡市立仙北中学校	小野寺 哲男
5	盛岡	盛岡市立黒石野中学校	三浦 隆
6	盛岡	盛岡市立松園中学校	小野寺 満
7	盛岡	盛岡市立乙部中学校	小石 孝紀
8	岩手	岩手町立沼宮内中学校	長島 香乃子
9	岩手	岩手町立一方井中学校	工藤 靖夫
10	岩手	雫石町立雫石中学校	菊地 正道
11	岩手	八幡平市立安代中学校	高橋 眞喜子
12	岩手	滝沢市立滝沢南中学校	江六前 仁史
13	岩手	滝沢市立滝沢第二中学校	遠藤 岳
14	岩手	滝沢市立姥屋敷中学校	高橋 邦明
15	花巻	花巻市立西南中学校	高原 智康
16	花巻	花巻市立大迫中学校	小田島 圭
17	花巻	花巻市立石鳥谷中学校	千葉 龍太郎
18	胆江	奥州市立東水沢中学校	後藤 康
19	釜石	大槌町立大槌学園中学校	小石 敦子

令和7年度新会員

No.	地区	学校名	氏名	前所属職
1	盛岡	岩手大学 教育学部附属	菊地 洋一	岩手大学教育学部教授
2	岩手	西根一	熊谷 一史	岩手県教育委員会 教職員課主任経営指導主事
3	岩手	安代	佐藤 公一	盛岡市立大宮中学校副校長
4	岩手	一方井	石関 由香	滝沢市立滝沢中学校副校長
5	岩手	(姥屋敷)	小野寺 光夫	雫石町立西山小学校副校長
6	花巻	宮野目	渡邊 康二	滝沢市教育委員会参事
7	遠野	遠野東	上館 敦彦	花巻市立宮野日中学校副校長
8	和賀	沢内	泉田 学	盛岡教育事務所 主任経営指導主事
9	一関	千厩	坂本 真	二戸市教育委員会 学校教育企画監
10	一関	室根	大道 篤史	二戸市立福岡中学校副校長
11	一関	川崎	齋藤 真	遠野市教育委員会 学校教育課長
12	釜石	釜石東	高橋 晃一	花巻市教育委員会 学務管理課長
13	釜石	(大槌学園)	安部 広一	岩手県教育委員会 学校教育室学力向上担当課長
14	宮古	花輪	佐藤 宏行	岩手県教育委員会 学校教育室主任指導主事
15	宮古	田老一	千葉 重徳	金ヶ崎町教育委員会教育次長
16	久慈	野田	小松 順一	盛岡市立河南中学校副校長
17	二戸	金田一	高橋 克己	大船渡市立東朋中学校副校長
18	二戸	浄法寺	村上 花恵	一関市立東山中学校副校長
19	二戸	軽米	小原 亮	県立一関一高 附属中学校副校長
20	二戸	九戸	川村 文孝	盛岡市立乙部中学校副校長
21	二戸	奥中山	野里 帝夫	花巻市立八重畑小学校校長